

## TEKU-TEKU 那覇まち歩き活動報告

### 【1】那覇企画

○開催日：2010年2月6日(土) 11:30～18:30

○テーマ：まちづくり企画「那覇、観光都市のまちづくり」

○企画概要：沖縄はわが国において唯一地上戦を経験した地域です。戦争において那覇市を含めた南部地域は壊滅的な破壊を受けました。戦後も旧中心市街地は米軍の接收を受け、市街地の周縁にあたる地域から自然発生的にまちが発展してきました。

本企画では、那覇のかつての中心地や戦後から発展してきた市場(まちぐあー)等を訪ねるとともに、昭和62年に全面返還された米軍牧港住宅地区跡地における再開発地区(那覇新都心)など、おおむね歴史軸に沿って歩きました。また、企画の最後には、周辺地域において普天間基地をはじめとする大規模基地返還が予定される中、那覇の魅力や今後のまちづくりに対する方向性などについて意見交換を行いました。



### 歩いたコース (赤字)

○コース：旭橋駅～旧中心地エリア(親見世跡、天妃宮跡石門、孔子廟跡など)～ガープ川沿～長虹堤跡(十貫瀬通り)～崇元寺跡～栄町市場(昼食)～壺屋・やちむん通り～農連市場～水上店舗など～桜坂通り～国際通り～牧志駅～[モノレール乗車]～おもろまち駅～那覇新都心(県立博物館・美術館など)～沖縄総合事務局(ミニ座談会)



○参加者:安里 直美、新垣 昌秀、池田 孝之、井手 幸人、大城 幸代\*、大竹 亮、大原 泉、海津 肇子、海津 寛子、上地 希実、金城 聡、栗原 徹、宋 暁晶、友寄 孝、仲間 文昭、西田 敬\*、比嘉 正人、比嘉 聡、平井 志都葉 (\*:一部参加)

コーディネーター:松野 栄明 (以上、23名)

(評価点の計算:とても良いA=5点、良いB=3点、普通C=1、良くないD=1とした平均値)

## 1. まちを歩いた全体の評価と感想

評価:AAAAAAAAAAAAAAAAABBBBBC 【4.4】

### <A評価コメント>

- ・沖縄の歴史の順に構成されており町の成り立つが把握できたのがテクテクらしくとてもよかった。浮島であったこと、終戦後の返還の歴史と街の発展との関わりもわかりたいへん勉強になりました。
- ・那覇のまちなりたちをたどるコースであったことが良かった。また、栄町一場、壺屋やちむん通り、農連市場、第一牧志公設市場など地元の方が使う市場を多く歩けて楽しかった。
- ・街の成り立ちを聞きながらの町歩きはとても楽しかった。
- ・県の中心都市であるとともに、観光地として雰囲気や、生活感のある様々な市場などもあり、非常に多様性がある。一般の住宅の多くがRC造なので、街全体の雰囲気が本土とかなり違う。
- ・那覇の歴史に沿って歩くことができたコースなので、まちの歴史を知り、深い魅力を感じた。しょっちゅう「なるほど」と心の中に言っていた。そして、不思議な～気持ちもあり、「なぜ自分の目線はこういうところに全然おけなかっただろう」と思い、地域の歴史と地元の人の思いをまちづくりの大切ポイントだと深く感じた。
- ・いかに那覇のまちに景観、まちづくり資源がいくつもあることが再認識させられた。歴史も琉球王朝から大交易時代、戦後の米軍駐留による街の変遷、新都心のような新たなまちの創出と旧繁華街の関係等々、まちの移り変わりとともに失われていくもの、何を残さなくてはいいかを考えさせられる街だと思う。
- ・那覇中心部の歴史と現在が、立体的に理解できた。歴史の面影はわずかだが、戦後の特異な都市形成の痕跡を随所に見ることができた。また、高密度で活気にあふれる都市であり、一方で路地や市場がヒューマンスケールの魅力的な街だった。
- ・沖縄の独自の文化、アジアのような魅力が引きつける雰囲気が新鮮であった。
- ・なはのまちなり立ちや変わらない街と変わりゆく街のコントラストが再発見できました。
- ・那覇の歴史的経緯を歩きながら学ことができ、とても良い経験となりました。特に旧中心地エリアはこれまでなかなか歩く機会がなかったので、楽しんで歩くことができました。
- ・普段中々歩かないルートでは新鮮な驚きがありました。また、よく歩いているつもりの場所でも、皆さんの感想を聞きながら歩くと、違った視点からまちの魅力が発見できました。
- ・資料や説明が詳細で分かりやすかったのもとても有難かったです。那覇という街がどのように構成されていたのか理解することが出来たとともに、那覇でも歴史歩きが出来ることを知った良い機会となりました。
- ・豊富な資料、行き届いた説明により町の成り立ちを知ることができました。
- ・あいにくの天気でしたが、私にとっては（距離的にも）とても良かったと思います。街なかでのteku-tekuでしたので、人数的にも良かったのでは。
- ・何度でも、こういった街歩きをしたいと感じた一日だった。コーディネーターの方の解説もわかりやすく、ためになった。私たちには当然のことに他県の方たちが関心を持って観察をしていることなど、やはり、地元の人間だけではないところが非常によかった。もっとお話をしたい方もいらして、

こういうイベントを機会につながりが生まれるとよいと思う。大変、よかったのだが、人数が少し多かったような気がする。

#### <B評価コメント>

- ・観光立県なのにサイン・誘導が不足。文化財等資源の周辺が無機質で都市化に伴い取り残されたままの印象。その割には歩いて観ると楽しく魅力も多い。
- ・那覇のまちが歴史的形成されてきたことが歩きながら体感できたのがとても勉強になった。
- ・那覇の町を改めて知った。とても良い企画であったが時間的な余裕が無かった。
- ・まちあるきのテーマとして、那覇のまちの履歴を辿るコースであったから楽しく参加できた。市街化履歴の異なる街区形態と建物がバラバラに混在する風景など、景観形成上の課題は多く残されているが、「単なるふつうのまち」ではなく「近世以前とのつながり」から、これまでの変化の過程を認識することで、改めて、那覇のまちの特徴や魅力を再発見し、地域性を育む機会となった。

#### <C評価コメント>

- ・この時期の沖縄は天気が悪く風が強いため、実際の気温よりかなり寒く感じられた。防寒対策が不十分だったため長時間のまち歩きが体にこたえ、見聞に集中できなかったことが悔やまれる。そのため公正な評価が難しい。

## 2. 各地区の評価と感想

### (1) 旧中心地エリア(旭橋～孔子廟周辺)

評価: AAAAAABBBBBBBBBBBBCCD 【3. 3】

#### <A評価コメント>

- ・歴史を知ると意味がある箇所、現在とギャップが大きい。
- ・松野さんや池田先生の説明を聞きながら歩けたのが良かった。
- ・那覇の真ん中のところに、こういう歴史的な場所を点在していて、なんとか商業地とのつながりがよい気がする。個人的に、繁華中の古さを点在しているのが好きなので、繁華中の静かが大事にしてほしい。ただ、こいいう場所の存在を人に周知するのはもっと工夫しないと。例えばバスターミナル隣の仲島の大石が全然知らなかった。
- ・いかに那覇のまちに景観、まちづくり資源がいくつもあることが再認識させられた。歴史も琉球王朝から大交易時代、戦後の米軍駐留による街の変遷、新都心のような新たなまちの創出と旧繁華街の関係等々、まちの移り変わりとともに失われていくもの、何を残さなくてはいけないかを考えさせられる街だと思う。
- ・街区が整備されており一見して新しい街並みですが、所々に近世那覇の歴史を感じさせる楔が残っていますね。私を含めて那覇在住の方々でも意識して散策する方は少ないかと思います。
- ・中高層ビルが建ち並ぶ街中に昔を偲ばせる石碑等があり、歴史の移り変わりを感じることができました。街なみが少し寂しく思えたのが残念です。



- ・仲島の大石は元々は浮島だったことを実感させるものだった。

#### <B評価コメント>

- ・要所要所に説明はありましたが、歩くコースになっていないのでこれからですね。今回歩いたコースを是非地図として紹介してはどうでしょう。
- ・穴場的な歴史エリアの印象。交通の拠点にもあり、全体的な解説・PR提供する溜まれる機能がほしいところ。
- ・那覇の旧中心地が浮島であったことには知らなかった。仲島の大石や天妃宮跡石門などにその面影を見ることができ興味深かった。しかし、その他はほとんど失われているのが残念である。
- ・歴史的な成り立ちを聞きながら、当時の空間を思い起こしながら楽しく歩けた。
- ・何度も那覇に来た私もこの辺の史跡は名前すら聞いたことがなかった。琉球が、薩摩は元より近隣諸国との接触が多かったことが伺えた。
- ・歴史的な面影が失われた市街地だが、要所要所に銘板があるのと、仲島の大石や上天妃宮石門などの遺構に歴史をかいま見て、かつての姿を想像した。
- ・戦災復興区画整理により住宅地域に変わった街には、中心市街地であった古い那覇の賑わいは見られない。港町としてのコンパクトな街であったことが説明により実感できた。
- ・昔の様子を記した石版はとても良いと思いました。失われた土地の記憶がとても惜しいと感じます。
- ・跡地に建てられている碑を読むのがとても楽しかったです。
- ・区画整理により地形的にも当時の面影を残すところはないが、古地図を手にとりじっくり歩いてみたい。
- ・車では通るがほとんど歩いたことのない地域。那覇のはじまりのまちだというのに、知らないことばかりで新鮮であった。もう少しなごりがあればと惜しい気持ち。

#### <C評価コメント>

- ・様々な歴史のあるエリアだが、目に見える形で残っているものがあまり無いので、街を歩いてもその歴史をイメージしにくい。
- ・歴史性やテーマ性が希薄な地区。要所の説明版を辿ることでまちの履歴を味わえるおもしろさはあるが、かつての面影がほとんど無く、ガイドがないと一般にまちの魅力として再発見されにくい。浮島の原風景をシーンとして歩いてみたくなるような松並木の通りなど魅力づくりがほしい。

#### <D評価コメント>

- ・歴史的な背景が街づくりに活かされていない。歴史をたどる道のようなコンセプトがまちにあってもいいのではないか？また、港との連携も欲しい。那覇が港まちを感じさせない理由がこのエリアにある気がする。

### (2)長虹堤跡エリア(ガープ川沿、長虹堤跡、崇元寺跡) 評価:AAAAAAAAABBBBBBBBBBBBBBBB 【3. 9】

#### <A評価コメント>

- ・長虹堤跡などは町歩き箇所として整備してもっとアピールすべき
- ・松野さんや池田先生の説明を聞きながら歩けたのが良かった。
- ・まちに川があるのは、とても親しい気持ちである。歩いて行くと、ロマンチックな気持ちもする。特に古い民風がいいと思った。ガープ川沿の整備が必要だと思った、その際、同じ雰囲気が残してほしい方策がいいと思う。

・国際通りと国道 58 号に挟まれた場所は、都市の更新から取り残されたような建物がいくつかあり、幼少の頃に見た風景と重なるような気がしました。

・国際通り等の中心市街地の周縁部にありながら、どこか懐かしい感じを受けた街の一つである。美栄橋駅の周辺はホテル計画や再開発の意見も過去にあったが、どのような街がよいのかもう一度考える機会が得られた。

・失われた風景や今も残る当時の地形を眺めながら、時の流れと、まちの変化に思いを馳せました。

・本州では見られないアーチ門の形を見ることがで

き、なるほど文化が違うなあと感じました。確かに石の組み方がマチュピチュと似ていてびっくりしました。

・アーチ門などの石の組み方がマチュピチュのそれと似ているという話が興味深かった。



#### <B評価コメント>

・長虹堤後も浮島の説明の後であったので理解すやすかったが、看板などはもう少しわかりやすい説明をしてほしい。

・ガープ川沿、長虹堤跡は往時の面影少なく解説版などほしいところ。崇元寺跡は石造遺跡の比較的に規模もあり視覚的な魅力大。十貫瀬通りも旧家屋の飲食サービスの利活用に期待。

・長虹堤が浮島であった那覇と首里を結ぶ道として築かれたことに歴史のロマンを感じる。ほとんどその面影が残っていないのは残念であるが、崇元寺跡の石門とガジュマルの大木は迫力がありました。

・長虹堤は今の通りからはイメージできませんでしたが、崇元寺跡の石門を入ると立派なガジュマルがあり、とても落ち着ける場所した。

・長虹堤跡は、歩いて当時の痕跡はよくわからなかったが、崇元寺跡の石積みとガジュマルの大木の迫力は素晴らしい。

・戦後の雰囲気が残る場所が市街地のど真ん中に残っている。琉球王朝といった歴史的価値というほどのものではないが、裏筋の風景は 40 代以前の人々の原風景といえるもの。また、崇元寺跡などは程よい距離間を持って市民の生活風景に溶け込んでいる。

・那覇が浮島であったという事実を初めて知った。崇元寺のアーチ型の石の門などは本土の寺では見当たらない様式なのではないだろうか。

・長虹堤跡の道には往時の繁栄を思わせる建物が並んでいた。崇元寺跡は石積みの連続アーチが見事で、都心のオアシスだった。

・美栄橋駅前では、地図に区画整理有り無しの区域の分かれ目がはっきり出ていて面白かったです。綺麗に区画された街は便利ですが、戦後そのままできあがったまちもまた違う魅力があって良かったです。

・これからまちづくりが進められるところですので、資源を大切にしていきたいと思います。

・局所的だが古琉球時代の痕跡と下町の生活感漂う地区が隣り合わせており、個性的で面白いエリアとなっている。一見乱雑な風景だが、ガープ川沿いの牧志 1、2 丁目あたりは「昭和レトロ調」、敷地から溢れる緑やカンヒ

ザクラに心が和む。緑が丘公園とガーブ川沿道敷地、十貫瀬公園をさりげなく緑道でつなげるとより魅力的。  
・ガーブ川は気になっているエリアだったので、今回みなさんと歩くことができてよかった。もう少しコーディネーターの方の近くに張り付いてお話を聞くことが出来たらよかったが、建築物のお話など興味深かった。

### (3)栄町市場

評価:AAAAAAAAAAAAABBBBBBBBC【4. 1】

#### <A評価コメント>

- ・当時の活気を維持している印象。怪しげなゾーンが魅力的。若い世代が使いこなせれば継続的活性化も十分可能。再開発に頼らない安全度の向上方策の検討が急務。県内に残り少ないまちぐあいをぜひ保全すべき
- ・生活感のある市場を見れて感激。
- ・昭和レトロを感じさせる迷路のような商店街である。サーターアンダギーはここが一番安かった。
- ・迷路に人情味のある店、若い人のアート系の NPO とともチャンプルな空間でした
- ・沖縄の戦後商店街の原点、昔、国際通りの商人達は栄町を起業の起点として発展してきた。今でも不思議な活気と明るさがある。
- ・建物に囲まれた広場は、数年前に訪ねた北京の胡同の中の広場を彷彿とさせた。ひめゆり同窓会が此処にあったとは驚いた。殆ど昼食タイムにとられ、細かく回れなかったのが残念。
- ・今回は昼間に散策しましたが、昼夜でこれほど雰囲気の変わる市場も珍しいと思います。平和通りなどとはひと味違った元気のある場所です。
- ・那覇で一番元気な市場である。市場の人たちが長い期間取り組み続けた成果を実感できた。市民協働の市民大学の開催場所でもある。
- ・昼の栄町市場には人通りもなかなか多く、下町の雰囲気がとても心地よかったです。夜の栄町散策もしてみたいですね。
- ・現在の雰囲気を継承しつつ、元気、賑わいのある市場へ再び発展して欲しい場所です。戦後の那覇の雰囲気が、今なお残る素敵な散歩空間でした。
- ・初めて訪れたのに何故かなつかしい気持ちになった場所でした。
- ・クリアランス的なまちづくりは避けたい所。住民・地権者へのその良さ伝え方を間違わないようにしたい。

#### <B評価コメント>

- ・観光地としては難しい。地元のための市場と居酒屋
- ・庶民的な雰囲気のある市場。時間帯が半端だったためか、あまり活気が感じられなかったが、夜飲みに行くと面白そう。
- ・庶民的な店が並び、現役の賑わいがあった。アートスペースとしての利用など新しい動きも注目される。
- ・店頭で売られていたサーターアンダギーがとても安くて美味しそうだったのが印象的でした。
- ・戦後復興時の街区形態が現存、「昭和文化」が凝縮された魅力的な空間。変わらぬ姿で商いをするたくましさに圧倒される。「おきなわ時間」をアートテーマとするNPO活動(若い血)によって、新たな人的ネットワーク形成が触発され、魅力が継承されることを期待したい。

#### <C評価コメント>

- ・初めて栄町に行ったが、あまり衝撃的のような魅力を感じなかった。特に、その防災、衛生状況があまり良くない

と思った。個人感覚の差もあるが、栄町はなぜ近年魅力が示したのはまだよくわかってない。勉強不足だ。

#### (4)壺屋・やちむん通り

評価:AAAAAAAAAAAAAAAAAABB 【4. 8】

##### <A評価コメント>

- ・琉球石灰石に石畳、脇の路地、道のゆるやかなカーブや高低さが雰囲気を作り出し魅力的な道作りになっている。
- ・数少ない施設・拠点の単体復元的なものでないエリア。グレードの高いまち空間の復元整備は往時の雰囲気十分。沿道の民家や石垣、色使いなどもっとディテールに地域が拘っていければ更なる人気エリアへ。
- ・ここには何回も来ているけど、裏通りを歩けたのが良かった。あと景観地区の建築景観誘導の話が聞けて興味深かった。
- ・那覇の観光拠点として重要、もっと観光客を誘導する方策必要
- ・景観形成地区として頑張っている。特に石垣が美しい。生垣のような石垣を初めて見た。壺屋焼きのお店も良いが、休憩してお茶の飲めるようなお店がもう少しあるともっと良い。
- ・昔からあったような琉球石灰岩の石畳の改修はすばらしい。
- ・市街地の中に焼物屋がこれだけ集まっているのは珍しい。表通りも悪くはないが、起伏のある裏通りの、石垣や塀や緑の雰囲気がとてもいい。
- ・やはりよく整備した観光地だと思った。当然この地域の元々の芸術雰囲気がその第一理由となる。沖縄の独特な伝統芸術が魅了した。
- ・那覇市の景観地区であり、石畳やカーの整備などを含めてよくやっている。まちづくりと商売が両立する見本。あえていえば、やちむん通りは歩行者専用にすべき。
- ・昨年 12 月に個人でも散策し一服しようと思ったが、ギャラリー併設のティールーム<南窯>はひとりで入るには気後れがし、佇まいの素敵なく茶屋すーじ小>はあいにく閉店日だった。雰囲気がいい場所だけに、茶店はもっとあった方がよいのでは。
- ・やきものの町として、景観形成と歩行者空間整備がうまく進んでいる。マンション1階を店舗に誘導するのは効果的と思う。
- ・都市景観形成地域でもあり、業務でもよく訪れる場所です。用途上の問題等もありますが、焼き物販売だけではなく、那覇市の「ものづくり」の場所として、もっと活用していきたい地域ですね。
- ・古き良き那覇の雰囲気を色濃く残す街並みを堪能した。新垣家の例もあり、石垣の腹が出ているものが多いことが気になる。調査の必要性を感じる
- ・壺屋は普段から良く行く地域なので、県外からの皆さんの意見が聞けたことが一番良かったです。時間があれば、お店の中で実際の壺屋焼きをゆっくり見てもらいたかったです。
- ・戦前の沖縄の集落の景観が残る貴重なエリアで、まちあるきには最適な場所でした。時間があれば、壺屋焼きや、博物館なども見て頂きたいと思いました。



- ・登り窯、共同井戸もちろんですが、沖縄らしい家屋も残されているエリアでもあり、とても楽しく歩くことが出来ました。
- ・登り窯、共同井戸(知っている井戸とは全く違う形)が印象的でした。
- ・街がもっと呼吸できるようにしたい所。また、多様な工房が自由にできるようにしたい。(壺屋は排他的といわれる。)特別用途地域(焼き物工房が可能)指定に向けた作業を取組中。

#### <B評価コメント>

- ・戦後復興のやきもの職人のまちとして、スーヅ(路地)の奥行き感、敷地の緑、大木、石灰岩石積、工房・店舗など生活景が美しい。地区の生業と景観づくりが上手くかみ合ったと思う事例。

### (5)農連市場

評価:AAAAABBBBBBBBCCCCCDD 【2.7】

#### <A評価コメント>

- ・レンタカー観光困難エリアのもよう。近代沖縄の生活臭が漂ってくる感じ本物の市場そのもの。新たな再開発事業のコンセプトづくりにはじっくりと慎重に。時間帯も工夫しながら訪れたいもの。
- ・危険性除去と独特の雰囲気を持てるような再開発が上手できるか…。
- ・盆や正月には、暗いうちから人混みでごった返した過去の市場の賑わいを思い出した。原風景である。那覇の玄関口である開南バス停への連絡を配慮した再開発が望まれる。
- ・再開発が行われる予定であり、ぜひ今のうちに歩いておきたいエリアなので、非常に良かったと思います。かなりディープですが、早朝4時の雰囲気も味わって頂きたいです。

#### <B評価コメント>

- ・再開発は必要だが、再開発してもどうなるか不安
- ・予定されている防災街区整備事業は、朝市が立つという農連市場の雰囲気を残す、或いは活し、歴史を繋ぐものであって欲しい。
- ・地域の人々の生活につながる市場であり、地元の人にとって心地よい場所であると思った。ただ古いと旧はやはり違うと思ったので、修景ができればいいなと思った。朝のにぎわいを見れなかったが、たぶん東京の築地の様な人気な場所かも、それがいいな～。
- ・かつての市場の雰囲気が残っている。再開発されるようだが、事業後も商売の活気が続くことを願う。
- ・再開発等の詳しい説明を聞き、この地域特有の事情が絡んだまちづくりの大変さを改めて実感しました。時間帯もあるのですが、活気ある市場の様子が見られたらなと思いました。
- ・訪れた時間のせいか活気の感じられない市場だった。

#### <C評価コメント>

- ・市場の時間に來たかった。朝の様子を見たい。
- ・営業日に來てみたかった。
- ・あまり店が開かれていなかったのも、市場的な活気はわからなかったが、川とバラックのような建物が織り成す独特の空間は、なかなか面白い。
- ・曜日と時間帯のせいか、あまり活気が感じられなかった。今度は朝一に來てみたい。

- ・なかなか再開発が進まないという話を聞き、やはりこういった場所はどの都市でもあるんだなと感じました。
- ・呼吸していない街(施設)。人がいない。来ない。どうにかしたい。
- ・かつての農連市場の賑わいを懐古し、正直、再開発は寂しい気がした。再開発しても、ここへの観光誘導が上手くされないとなかなか向かえない。

#### <D評価コメント>

- ・みるみる寂れていくのが、わかるまち、危険もいっぱい。早急な対策が必要。相対売りの商売形態をいかに残してつぎのまちづくりにつなげていくか。人と人が触れ合える街づくりを期待。

#### (6)牧志公設市場周辺(水上店舗群など)

評価:AAAAAAAAAAAAABBBBBBBBCC 【3. 9】

#### <A評価コメント>

- ・水上店舗も現代的かつアジア的にきれいになると魅力的と思う。
- ・農連市場に比べ近代的な印象で正に観光地。高齢者の買い物客も多くのまちなか居住のあり方を考えさせられるところ。2階の空き店舗利用に中心市街地の継続的活性化のヒント・可能性大。水上店舗など都市計画の変遷は専門家にも魅力的。
- ・人の導線はあるが、もっと那覇の観光地として考えるべき。
- ・アジア的雰囲気いっぱい活気がある。
- ・公設市場は観光地の雰囲気だが、それより南側の水上店舗群などは、地元の人々のための店舗が並び、生活感が感じられる。
- ・牧志公設市場は、釜山のチャガルチ市場を思い出させる。水上店舗群も冬ソナのロケ地、春川でペ・ヨンジュン演じるチュンサンがラーメンをすすっていた辺りが確かこんな景色ではなかったか、と思う。
- ・非常に賑わっているように見えたが、買い物客はそう多くはなかった。若い世代や郊外居住者が増えるとうなるのだろうか。水上店舗の改良は、従来の発想をこえたスキームが必要では。
- ・アジアの市場のような雑然とした街路空間、店舗の店先の雰囲気が魅力になっている。
- ・観光地とはいえ相変わらず地元客も多く賑わっており、安心しました。昔の市場の雑多さを残す市内でも貴重な場所ですね。
- ・建物の端から端までを歩いて、その長さを実感して頂ければさらに良かったと思います。2 階の不思議な空間もお見せしたかったです。
- ・活気があってとても楽しい場所でした。散策が十分に出来なかったの残念です。
- ・ゆっくり楽しみたいと思わせる所でした。



#### <B評価コメント>

- ・とてもいいロケーションだと思い、再整備で地区の光が出せるようにしてほしい
- ・那覇市の中心(へそ)であり、もっとも商人のまち「なふぁ」らしいところ。ただ、最近観光客向けに顔をつくっている。

観光客だけでなく、いつも地元を意識して、今の雰囲気を活かして若者も呼べるまちにしていける必要がある。もっと周辺を含めた連携を・・・

- ・公設市場や平和通りは完全に観光地化され、地元の市場としての危機感を感じる。公設市場改築の合意形成には十分な期間が必要だろうと思う。
- ・市場近くのすーじに面白そうなお店があったりと、色々散策したかったのですが、時間がなくあまり回れなかったのが残念です。
- ・私は公設市場では買い物しない。地元住民と観光客で賑わうには。地区内に人が住めるようにできれば。その様な視点でのまちづくりに取り組むようにしたい。
- ・沖縄の食・衣料・娯楽などが集積、アジア風の生活臭が漂う界限は、旧暦での行事慣習が残っている地元にはまだまだ実用的。そのためか県外客にも魅力的な観光ルートとして実感されやすい。ただ、祖母の時代からのウチナー時間と活気が薄れてきているのも事実。

#### <C評価コメント>

- ・ここはよく来ているので、特段感想はないが、初めて建物の2階に入ったら、空き室を市民に貸していたのが興味深かった。
- ・水上店舗の空き空間に若いアーティスト等を入れると地区も少し活性するのでは。

#### (7)桜坂通り～国際通り

評価:AAAAAABBBBBBBBBBBBBBBBC 【3. 5】

#### <A評価コメント>

- ・国際通りから入ったこんな場所に新しいまちづくりの動きがあるとは興味深かった。
- ・桜坂通りが裏道であり、路地によってすごく歩き気持がよかった。またパークがあつて、映画館があつて、若者でも、年よりでも楽しめる場所だと思った。
- ・国際通りは両側にお店が並び、人通りも多いが、適度な道幅と沿道建物がヒューマンスケールで、親しみが持てる。周囲に、桜坂劇場やパラダイス通りなど高感度なエリアが育ちつつあつて面白い。
- ・桜坂劇場やてんぶす那覇などリニューアルした建物がある一方、西側はディープな雰囲気を残しています。時間があれば、竜宮通りなども散策できれば良かったかもしれません。
- ・戦後の沖縄の政治経済界の社交場の面影をわずかに残しつつ、映画館を中心に文化発信の息吹を感じる。
- ・最近の沖縄の元気情報の一つである桜坂劇場をご覧頂けて良かったです。歓楽エリアには空き地が目立ち始めていて、まちの雰囲気がだいぶ変わってきました。

#### <B評価コメント>

- ・これからに期待します。あまりきれい過ぎてもつまらないと思いますが
- ・映画館をコアとした地域振興成功事例エリアの雰囲気が十分伝わるところ。周辺のノスタルジックな店舗等も旨く同調している。今後も時代設定に統一感も持たせながらゆっくり成長させていくべき場所。
- ・人の導線はあるが、もっと那覇の観光地として考えるべき。
- ・桜坂劇場のような若者が集まる核となる施設が繋がると良いと思う。
- ・若い人の店舗が入っているので今後の展開が楽しみ
- ・桜坂劇場は、非常に居心地の良いスペースだが、まだ、周辺との連続性が出来ていない。まわりに、もう少し店

が来ると、とてもいいエリアになると思う。

- ・公設市場と同様だが、桜坂劇場など地元を意識して、人材育成にも努めている。若者の支持も多い。周辺に若者が志向する店も立地してきている。まちぐあー(牧志公設市場)と連携して、県内容を呼び戻すまちづくりを期待したい。
- ・ハイブローな桜坂劇場を抜けると、国際通りは打って変わって観光客に迎合したお土産店やレストランが立ち並び、1.6kmの一直線通りはあまりにわかりやすく歩きやすく、何度訪れてもついつい歩かされてしまう。
- ・国際通りを初めて見て、メインストリートとしては決して街路幅が広くないように感じたが、人通りが多く活気を感じることができた。
- ・桜坂と言えば映画館というイメージなので、館内に入って雰囲気を楽しめたらなと思いました。(コンバージョンを行った内装も興味があるので)
- ・桜坂で咲いていた桜が綺麗でした。国際通りはいわゆる観光地を歩いている気分でしたが、初めて行ったところだったので面白かったです。
- ・国際通りは「観光地」という感じでした。
- ・桜坂劇場を大切にしたい。数年前に一度転んだ街で、今後が楽しみ。

#### <C評価コメント>

- ・国際通り、てんぷす館はお土産品等観光地色が強く、地元人としてほとんど訪れることが少なくなったエリア。桜坂通りはオシャレな店がふえ客層も若くなってきたが、一時的な移住者好みの感じがしないでもない。桜坂劇場(NPO)を拠点とした沖縄文化発信と人材育成のまちづくりに期待したい。

### (8)那覇新都心

評価: ABBBBBBBCCCCCCCCCDDD 【1.9】

#### <A評価コメント>

- ・もっと人が歩きやすい、歩きたくなるまちを目指したいですね。

#### <B評価コメント>

- ・機能的なのだろうけど、ヒューマンな感じがしないのでおもしろくない。それで美術館をコンセプト？なデザインにしたのでしょうか美術館と街や駅のつながりが希薄。
- ・大規模な現代建築を頑張ってまとめて建ててみたという印象。グスクを模したという沖縄県立博物館・美術館は、見ようによっては中東っぽい建物かも。
- ・まちづくりとして賛否の分かれるところだと思う。楽市やメインプレスは休日の買い物客で賑わってはいる。計画人口も予定通り定着している。この街の魅力は何だろうと思うときがある。
- ・新都心地区の評価は様々ですが、やはり沖縄らしい魅力には乏しいのでしょうか。皆さんのお話を伺ってもそのことは実感しました。今後の、那覇のまちづくりを進める為には、この地区の十分な検証がまず必要かもしれません。



- ・関東にある再開発地区（横浜のみなとみらい21地区等）のような印象を受けました。
- ・横浜のMM地区が出来あがりつつあった頃が思い出されました。
- ・それなり人が集まってくるところなので良いのでは？tekut-teku 歩くところではない（歩いて楽しい所ではない）
- ・途中から再参加しました。新都心の開発はずっと気になっていました。まだまだこれからの街なのかもしれませんが、個人的には少し残念です。生活がにじみでて、歴史ができればまた違ってくるのかもしれませんが、ただなんとなく、ばらばらな印象があります。元からある建築物（カトリック教会周辺）やゆるやかな坂の稜線など地形の活かすとか、徒歩で散歩できるとか、素人ですがそういう街だといいのにな、と思いました。（超高層ビル建設の動向も気になります）。もう少し詳しくお話を伺えたらよかったと思います。]

#### <C評価コメント>

- ・モノレールで移動すると本土のようなアーバンなまちが出現し唐突な印象。博物館は新しいからか石使いも何か琉球というより中東的な感じ。車で使う計画のまちということで歩行者がいないがむしろ課題ではないのか。街路や公園など都市施設も充実しているがコンセプトなのか元が基地跡地であったことは全くわからない。
- ・ここもよく来ているので、時間があれば詳細にこの街区や建物の経緯や問題点などを知りたかった。
- ・チャンプル、土日も交通渋滞で行きたくない箇所。
- ・短期間に区画整理事業と上物誘導を行って新都心を完成させている点に、事業に関われた方の努力や苦労は理解できる。しかし、街を歩いている人がほとんどいない。歩いて楽しい街は新規開発では難しいのだろうか。
- ・開発としては良くできているのですが、歩くには魅力が欠ける。
- ・立派な新都心だが、歩くための街にはなっていない。
- ・米軍の跡地であることから、再開発がよくできたが、そんなに沖縄の魅力を表してないと思う。ただの商業中心地と思った。
- ・大規模開発によって計画された人工的な街が、賑わいやヒューマンスケールを欠いてしまった。相当な機能を集積させたにもかかわらず、コンセプトやゾーニングが不明確なので、それらが生きていないように思える。
- ・おもろまち駅からの歩行者導線で明確なものはDFSギャラリーのみであり、歩いて楽しい道路計画にはなっていない。自動車で来訪客は多いと思われるが、町並みに歩行者の姿が見えないこと。

#### <D評価コメント>

- ・文化施設と商業地区とのコントロールがうまくできていない。車中心のまちづくりになってしまったため、住宅地でも通過交通が多い。コミュニティのできにくいまちとなっている。車中心なのに道路網もうまくいっているとは言えない。商業施設は計画性が感じられないし、住宅地は街区公園のあり方、区画道路のあり方を含めもっと安全、安心と住民間の触れ合いを考えた整備を再考する必要がある。
- ・那覇の景観の全体像がもつ意味の重層性や多段階のスケール感がここには反映されなかった。歩いて魅力的とは思わない。天久クレセントの歩行者専用道路など、地域性の検討や実践がなされたが、既に土地区画整理（基盤）が固定し、街区形成がなされる段階での地区計画の導入であったため、外構の統一性はなく、また他街区では検討されていない。

### 3. まち歩きの中で、最も魅力的だった場所と感想(2カ所まで)

- ・壺屋・やちむん通り: 夏などは歩行者天国にして石畳に傘や休憩どころ(木陰とベンチ)をつくってはいかがでしょう。

やりすぎにならない程度に。石畳の上でさんしんのミニコンサートなどイベントがあってもよい。夜はどんな感じになるのでしょうか。

・壺屋、やちむん通り

・壺屋地区：やちむん通りの裏側につづく坂道の石垣が美しい。

・壺屋・やちむん通りの店舗：沖縄というイメージ最も感じた通りでした。

・壺屋・やちむん通り：沖縄らしい

・壺屋・やちむん通り：ツタで覆われた石垣の湿気と、静かで狭い路地の快適さは原風景として心地よさと癒しを与えてくれる。これだけ狭く石垣の連なる風景は、那覇にはここだけしかない貴重なものである。昔の沖縄のまちづくりのヒューマンスケールといえるか。

・壺屋・やちむん通り：今度沖縄に来たときには、じっくり歩いてみたいなと思いました。これまで琉球の陶磁器を良く知らなかったのですが、今回の街歩きを機に色々調べて見たくなりました。那覇市役所の方が地域の人と作成したマップも良い記念になりました。

・壺屋・やちむん通り：お散歩マップは次回遊びに来たときにやくだちそうです。

・壺屋：teku-teku 歩けるところ

・壺屋やちむん通りの裏のすーじぐあー：表の通りからすーじぐあーに入ったときの首里のすーじにも繋がる昔の雰囲気がいい。裏筋にそって、文化財となっている窯があるのもいい。王室ご用達だった壺屋の品格を感じる。

・やちむん通り沿道のスーヅグワ：古い石垣とイビカスラ、敷地の大木がシーンを形成する沖縄情緒たっぷりの路地。王朝時代から土地を守り続けてきた結果の風景。家主に敬服する。

・栄町市場：楽しく歩くにはそこに美味しいものが必要なのは地元も来訪者も同じくわくわくするもの。その点では公設市場も同じ。

・栄町市場：昭和30年代を感じられる商店街。規模も大きくなくてちょうど良く、アットホームな感じが良い。

・栄町市場：高齢化した古くから営業する市場の人たちと、観光客が訪れる新たな飲食店が混在し、昼となく夜となくゆったりとした時間が流れ、人通りのとぎれない市場である。なにより、市場の人々の結束が強く、行政との協働により独自に多様な取り組みを継続して行っている。

・栄町市場：牧志公設市場よりもお店の人との距離が近く、面白みを感じました。歩いていると迷路のように入り組んでいるし、色々なお店があるしインパクトが強いですね。

・栄町市場：夜に飲みに行くことが多いのですが、久しぶりに昼間に散歩しました。意外と活気があって、おじちゃん、おばちゃんの元気さに驚きました。

・栄町：teku-teku 歩けるところ。

・栄町市場：「昭和の匂いと色合い」が凝縮されたディープすぎる空間。

・栄町商店街の筋道と前島アートセンターのギャラリー：狭い商店街の筋道に入っていくと市場の商店だけでなく、前島アートセンターのギャラリーがあり、気さくな食堂ありと楽しめる。生活のにおいとちょっとした芸術家卵たちの香を感じる。

・牧志公設市場周辺：「アジア的でこういうところが残っていたとは。とにかくおもしろい。2階で1階の魚が食べられるのがよい。

・公設市場と周辺：沖縄の方の生活を体現でき珍しい商品にわくわくする場所。

・牧志公設市場：豚の頭や、青い魚など、本土ではなかなか見られない個性的な市場。ここで魚を買って、2階で宴会をすると楽しそう。

- ・**牧志公設市場周辺(水上店舗群など)**: 沖縄というより”アジア”を感じる。だいたい「マチグワカイ ユーメンソーチ エビーサヤー(市場ようこそいらっしゃいました)」という訳文なしにはさっぱりわからないカタカナ看板自体が、本土の人間にとっては「アジアの何処か」という印象である。
- ・**牧志公設市場**: 街路構造と沿道店舗の空間が那覇の他の商業施設にはない魅力である。
- ・**旧中心地エリア**: まち歩きしかわからない魅力だ。
- ・**旧中心地エリア**: 普段、ゆっくり歩く機会のない場所でしたので、新鮮でした。
- ・**旭橋から孔子廟まであるいた旧海岸地帯**: 古地図を見ながら地形などを感じ歩けたのが良かった。また自分でゆっくり歩いてみたい。琉球の歴史の重層性を感じられる。
- ・**孔子廟跡**: あの場所に建っていることを、長いこと思い出さずにいました。久しぶりに認識できてよかったです。
- ・**市場の空間**: あふれんばかりの商品、狭い通路、複雑な構成、雑踏の賑わい、どこまでも無限に続くかのような迷路状の市場の空間は、まるで小宇宙のようだった。
- ・**旧中心地～長虹堤跡～栄町市場**: 集合住宅なども本州とちよつと違っていることや、庭やベランダでも植物・樹木を植えていることを知ることが出来て楽しかったです。栄町の近くの小学校の建物(ゆいレールの駅から見えました)も沖縄らしくて、とても印象が残りました。
- ・**旧中心地～長虹堤跡～栄町市場**: 街の様子(建物など)が興味深かった。
- ・**農連市場**: レンタカー観光では体験困難なエリアであり、歩く企画でしか味わえないところ。地元の者としても存在理由や課題・方策など再考するもの多い場所。時間帯を考えた歩き方のバリエーションも色々と見込める。
- ・**桜坂通り**: シネコンや新しいパイオニア的店に実際に入って、直に新しい動きを感じたい。
- ・**古くて新しいお店**: 戦後の古い建物を転用した新しい若者向けのこだわり店舗が随所に見られた。川沿い、市場の奥、桜坂劇場、パラダイス通りなど、着実に変貌の芽が出つつある。2日目の解散後に立ち寄った国際通り裏手のカフェ Zooton's も、旅の終わりのひととき癒されるいい雰囲気だった。
- ・**ガープ川沿い**: ガープ川沿い(市場なども含めて)は、戦後の市民生活のまさに中心の場だったのだと思います。きれいな場所(水質)ではないかもしれませんが、戦後復興の泥まみれの雰囲気がいまだに感じられる気がして、おもしろい場所だと思います。
- ・**崇元寺跡**: 建築様式のお話や、宗教にまつわる話など興味深く拝聴しました。

#### 4. 那覇のまちづくりへの提言について

##### (1) 観光都市としての今後のまちづくりへの提言

- ・今回の街の歴史をみるようなコースを追加・地図にして紹介: 那覇は平地が多いので、サイクリングコースを紹介しレンタサイクルの宣伝を充実 那覇空港から自転車での訪問もよいかもしれません。
- ・陶芸をする 沖縄料理をつくる: スルーではなく、何かをし滞在時間を延ばす仕掛けが必要。
- ・住んでよし訪れて良しのまちを目指し、文化財等地域資源の保存から保全へ向けた議論・取組を進め、県都に相応しい数世代先まで評価されるようなサステナブルなまちづくりを期待したい。
- ・琉球の重層している歴史を感じられるようにすると、国際都市としての本領を発揮できると感じた。お店や飲食店なども歴史的な経緯を経て現代に至っているようなので、それを観光客にも感じられるようにすると、歩いていても楽しいと思う。
- ・歴史と美しい自然をテーマとする。新都心の街づくりでは観光客は来ない。

- ・今回の企画のような那覇都市モノレールの駅から歩いて楽しめるコースをたくさん造って紹介してはどうでしょうか。地元の人が愛するお店や場所が観光客にとっても魅力を感じると思います。
- ・観光客は那覇らしさを求めて訪れるので、公設市場のような普段の那覇の生活を体験できる場所はとても魅力的。こうした空間をうまく整備していくことではないでしょうか。
- ・リゾート地としての観光もいいが、琉球王国としての文化や、戦争・占領時の歴史も含めて、きちんと理解できるような観光を目指すべきだと思う。
- ・那覇の歴史及び歴史的な観光ポイントを周知すること。まち再整備するときに必ず沖縄らしいものを残す、作る。
- ・那覇は観光資源となる景観資源、歴史的・文化的資源が盛りだくさんに存在する。琉球政府時代の負の遺産もある意味では、原風景。こうしたものを開発して失うのではなく、活かしたまちづくりが必要。地元の人がアイデンティティを感じる街を創ることが、観光客も呼べる街になる。
- ・那覇では国際通りを歩くだけで終わっている観光客が多いのではないかな。今回のコースを短時間で回れるよう歴史コース、市場コースなどテーマ別に分けて、定年退職者などのボランティア・ガイドを育成してはいかがでしょう。故郷に思い入れの強い“うちなーんちゅ”にぴったりだと思いますが。
- ・地元の人たちが日々を生き生きと過ごし、暮らしを楽しんでいる都市であってほしい。街に対する人々の誇りと愛着が、美しく魅力的な都市の姿を創り、外来者へのホスピタリティにもつながると思う。
- ・自動車が主の交通手段を反映してか、観光対応も沖縄県内の移動は団体ツアー客に対する大型観光バスを主として対応しているように思う。アジアからの入り込み客の拡大はそれで対応できると思うが、小人数・個人化が進んでいる本土からの観光客に対応できるかが課題に思われる。
- ・国際通りの路線バスは路線網が観光客にはわかりやすいようにはなっておらず、また、モノレールとの連携も案内などは必ずしも適切ではないように思われた。歩行者のための空間としての魅力を感じる場合、那覇市程度の人口集積であれば、4社あるバスの統合案内など路線バスの活性化を考えた方がよいように思う。
- ・むつみ橋通り～牧志公設市場周辺は、現在の歩行者中心の雑然としたところもある街路空間としての魅力を生かしてほしい。ハード系の大規模な再開発に頼るのではなく沿道店舗のマネージメントを行うことにより個別の店舗対策を地道に行うことにより、沿道全体としての魅力を保つ方策を議論した方がよいように思う。
- ・やはり歩いて楽しいまちづくりを進めていきたいですね。そのためにも、街路樹や歩道等の整備も今以上に必要かと思っています。
- ・思いとして。那覇の魅力、文化、伝統、体験すること、について変わらないものと、時代の先を行くものを見つめなおし、もう一度訪れたいと言ってもらえる街にしたい。
- ・中国・台湾からクルーズ船に乗って多くの観光客が来る、移動しやすい観光サイン表記の多国語化を急ぐ必要がある。交通拠点などで。
- ・那覇の経済が観光に大きく支えられていることを、行政と市民がしっかりと実感しないといけないと思います。沖縄らしい景観の創造や、都市の価値を向上させることの必要性をより強く認識し、実践することが重要です。
- ・那覇の歴史スポットを回れるような、ランニング／サイクリングルートを紹介することも可能ではないかと思っています。旅行先でランニングをすると、車移動では感じられない地域の空気や街並みを体感でき、とても良い思い出となります。ただ、初めて行く地域では土地勘が無いため、走りたくても何が安全なルートなのか良く分からないという不安もあります。こういったとき、オススメランニングルートなどがあると、とても助かります。(ここ最近、ネットや雑誌でも旅行先でのランニングを紹介されていますので、こういった要望はもうすでに市役所などにも寄せられ

ているかも知れません)

- ・栄町市場ややちむん通り、公設市場周辺のような古い生活感のある街の魅力は大きいと思うので、是非残して欲しいものです。
- ・多段階のまちの履歴と人の暮らしのシーンが、空間的・時間的にも集積することによって表現される地域性など、歩くことによって実感されるコミュニティの営み、生活景づくりを観光まちづくりの面からも育成支援していくこと。
- ・駐車場やモノレール駅からの歩行案内として、那覇国際通り～公設市場～やちむん通りの歩道面に設置された現地表示と、それと対応した那覇ナビ（那覇市観光協会発行）の活用方法を、地元通り会を巻き込んでアピールいく必要がある、と感じた。
- ・今企画で魅力的なまちだと改めて感じました。”那覇”という大きな枠でなくて、小規模で、顔の見える範囲で（中学校区くらい？）、それぞれのまちづくりができればいい、と思います。観光という意味では、訪れた人がその小さな地域の”顔”が見える、表現技術が必要なのかなと思います。場所であったり、テーマであったり、統一したイメージ発信という意味です。

## (2) 旧中心地エリア活性化に対するまちづくりへの提言、助言

- ・近くに駐車場もつくり少し遠くからでも買い物に来てもらう工夫。内部は徒歩に限る。
- ・公衆トイレもほとんど無い、未活用のエリアで、交通の拠点にも近いことから、トータルな琉球を提供・発信するようなスポット的なものを検討しても良いかも。
- ・ここは私も歩いたのは初めてです。ほとんど観光客は歩かないでしょうから、琉球と那覇に関する歴史資料館でもつくって、それと歴史の道や遺構をネットワークさせ、重層する歴史が感じられるまちづくりをすすめると面白いと思います。
- ・活性化する必要はない
- ・那覇が浮島だったころの地図、あるいは江戸時代の地図と現代の地図の重ね図を作って、その痕跡や歴史を活かたどる今回のような企画を観光コースにすべきです。そこから今後のまちづくりへの手がかりが見えてくるように思います。
- ・昔のまちと現在のまちの変化がわかるマップをつくり、NPO 等でまち歩きツアーを企画してどうでしょうか。
- ・ところどころに解説はあるが、かつての中心地としての痕跡があまりわからないので、もっと目に見える形で、街の歴史がわかるといい。
- ・旧中心地エリアは歩いて気持ちが良いのは、その歩く途中の商業地の魅力も一緒に交えたことだと思う。単にそのいくつかの跡を観光バスで見に行ったら面白くないかもしれないので、ぜひ歩くコースで観光客にお勧めしてほしい。また地域中で、簡易観光車両で回ってもいいかも。歴史を表す絵とか、文字とか、芸術的な手法でコース沿いで紹介したらどうか。
- ・歴史的な背景が街づくりに活かされていない。歴史をたどる道のようなコンセプトづくり。港と連携した港まちを感じさせる街づくりにより個性的な街を創ることにより活性化。欧米でも港町の雰囲気のあるまちは元気がいい。
- ・人が住み、働く活きた街であり続けてもらいたい。分譲マンションは、デザインも全国画一だし、目一杯の高度利用をするので要注意。外部資本に頼らず、一人一人の想いが街の姿形や活動につながっていくような、市民主導の方法が必要と思う。

- ・基本的に上記と同様になります。点的な景観資源を繋ぐような整備(ソフト面含めて)も重要ですね。
- ・みなとまちとしての歴史的散策ルートを、那覇港管理組合が策定の港町ウォーターフロントマスタープランの散策ルートと連携して、旧市街地の歴史遊歩道ルート作りができないか。
- ・市民の誘客が重要との認識は皆がもっているが、日用品や生活必需品などの通常の購買層としての誘客には今後も苦戦するのではないのでしょうか。中心市街地への文化の集積と情報発信が重要だと思います。桜坂劇場が良いヒントを与えてくれています。
- ・活性化というより大門復活、久米通り→波の上、マツのスカイラインが見え隠れする風景など歴史地区のテーマを設定した通り景観づくりができないか？
- ・案内板がちゃんとあることに（知らなくてすみません）驚いた。ルートマップはあるのでしょうか？ 誰か歴史上の人物の逸話や物語があると、面白そうなのですが。子どもたちと一緒に街歩きしてみるといいかもしれない。

### (3)農連市場の再開発についての提言、助言

- ・農連の機能・施設は単にどこかへ移転するのならば、単に新たな安全性の高い居住空間が造られるということだけ。例えば位置的な役割・経緯に鑑みた壺屋や公設市場等との回遊性も有した再開発事業計画とするのか。単なる事業推進ありきの利害調整主体ではない俯瞰的な視点からの幅広い議論・検討に先ずは期待したい。
- ・設計コンペにすると色々な提案がでてきそうですね。再開発という事業上難しいでしょうけど、1カ所でもこの場に相応しい魅力的な施設が出来ると良いと思います。
- ・今のままではダメだが、再開発しても活性化するとも思えない。テーマとポリシー。
- ・やはりガーブ川沿いの朝市の立つ市場の機能と雰囲気が残る再開発とすべきだと思います。
- ・中央に木造市場の柔らかなショップ空間をうまく残して、食べ物も提供できる市場になるといいですね。
- ・現状の市場を再開発ビルで継続するのは難しい。屋根付広場のような空間をつくり、そこで市場の営業と市民のフリーマーケットを複合させたら面白いのでは。
- ・きれいにしてほしい。
- ・決して高層な建物を建てるのではなく、低層でお互いの顔がよく見える街、相対売りによる商売、コミュニケーションを訪れる人に感じさせるまちづくりが活性化につながる。
- ・市場の持つ活気や賑わい、庶民性、ヒューマンスケールという持ち味を継承してもらいたい。大街区の土地処分は要注意である。低層部を店舗にする対策は効果的。
- ・テル、住宅等の大きな施設を計画しているので、「まちぐわー」の雰囲気を壊さない(スケールアウトしない)よう、注意したいところです。
- ・相対売りの青果売り場の雰囲気は是非残してほしい。周辺の卸問屋や小売り商の荷下ろしスペースの確保など、課題は多いと思う。
- ・現在もバスに乗って買い出しに来る高齢者はいる。バス停までの快適な歩行空間の確保が必要。
- ・最も大切なことは、商業形態をはじめとする過去から受け継がれてきた市場の特徴を継承しつつ発展させていくことだと思います。また、再開発により、周辺にどれだけ良い影響を与えることができるのかを、十分考えた事業になるよう関わっていきたいと思います。
- ・8割が県有地。土地を県に権利返還して残った土地で、那覇市が再開発事業、防災市街地整備事業を行うとのこと。市の再開発計画と、県の土地売却、双方の事業方向の趣に、整合がとれるといい。単なる町中のコミュニ

ティ形成（住宅開発）でなく、庶民性を大事にし、ガープ川河岸沿いを散策しながら立ち寄れる小店舗（長屋形式）、対話型の商業地形成ができないか？

#### **(4) 今後の基地返還跡地のまちづくりへの提言、助言**

- ・住宅地や商業施設についても曲がりくねった道など歩車道分離の歩いて楽しい道をつくる。
- ・枠組みづくり・人づくり。地主に対する教育プログラムづくり。
- ・総合的な事業交付金制度創設など、事業のスピードアップ（供用開始の最速化）。
- ・那覇新都心みたいにならないように、もっと沖縄らしい基盤整備と建物や外構のきちんとしてガイドラインを担保して事業をすすめるべきです。
- ・1000万の観光都市をどうやって作っていくのが重要。基地返還の跡地に金をかけて再開発するだけではダメと思量される。
- ・返還地の開発で周辺市街地も環境が良くなり元気になる、良い連鎖を生むまちづくりを進めることが重要ではないかと思います。
- ・難しいと思いますが、全体でなくてもいいかと思いますが、自然の再生といった観点から水と接することのできる歩ける空間を取り入れてどうでしょうか。
- ・広大な跡地をどう使うのかは、基本的には市民の間で十分に議論して決めるべきだと思う。個人的なアイデアとしては、例えば、地域で排出されるCO<sub>2</sub>を完全に0にする究極のエコタウンといった実験プロジェクトを、国のモデル事業としてやるのがいいのでは。
- ・緑に中心した計画がほしい。個人的にパチンコ屋さんが好きじゃないから。それから、子供が遊べる大広場がほしい。
- ・返還される跡地の利用コンセプトに沿って、景観法などもにらみながら、地区計画や建築協定を活用した地権者や住民も交えた計画的なまちづくりが必要。緑も緑地率だけでなく、緑視率、緑被率の考え方も入れて3次元で緑を残すことを考える。
- ・とりあえず遺跡発掘はしてみるべきだと思いますが、その後は妙案が浮かびません。
- ・全体計画から入って部分を整備すると那覇新都心の様になってしまうので、小さな部分のヒューマンな開発を集合すると全体になるような、有機的かつ高度な計画システムが必要ではないか。
- ・那覇新都心のように、商業系に頼り中心市街地との競合を招くのではなく、那覇地域で不足しているように思われる防災拠点、公共空地空間の確保として財政の投入も含めて採算性の是非に捕らわれない計画にした方がよいと思われる。
- ・良くも悪くも新都心がお手本になるかと思います。新都心地区で課題の残る歩車道の段差解消や街路樹などの植栽計画をしっかり行い、歩きやすく楽しいまちづくりを目指してほしいです。
- ・夢のあるまちづくりをしてほしい。周辺の環境や、歴史的背景に配慮して個性的なまちづくりが重要と思う。北谷町のハンビー跡地のように。
- ・地主会の意欲や合意形成が重要、勉強会を十分重ねて悔いの残らないように、また、そこに住む人、商売をする人の認識が重要で地区計画や用途制限など必要な規制誘導はしっかりと。
- ・今後返還される大規模な軍用地については、当該地区のポテンシャルを超えた無理な開発をせず、自然環境を残しながら、特徴のあるまちづくりが必要だと思います。そのためには、まちづくり対する地権者の意識の底上げが必要です。個人的には、ドイツ、フライブルグ市のヴォーバン地区など

がお手本だと考えます。

・\* 普天間基地の跡地に「国連アジア本部」を！など夢のある話が出てくると楽しいですね。

- ・最近本州では少なくなってきた昔懐かしい雰囲気を残している栄町市場、やちむん通り、公設市場周辺については、とても魅力的だと思います。景観というのはそぐわないかも知れませんが、その雰囲気を壊さないような配慮が必要だと感じました。
- ・広大な面積で地権者が多い基地跡地利用では、区画整理事業の活用法や早期地区計画の導入などが指摘されてしまうが、周辺土地利用も併せた生活景の形成に取り組んでいく必要があります、もっと、地域全体の水循環や食の風景づくり、防災に配慮したまちづくり、土地利用のプランニングが議論されるべき。例えば、中位段丘台地上にある普天間飛行場は、低地部に表出する湧水によって育まれる田イモ畑の雨水涵養地となっており、沖縄食文化の風景（都市観光、エコツーリズム）を育む視点からは基地跡地利用において大規模な緑地が担保されるべき。
- ・基地周辺に形成された劣悪な住環境も、跡地整備と一体的に防災まちづくりを行う必要あり。
- ・次世代に託すというような悠長なことを言うてはいけないんですよね・・・。お話を半分しか聞いていませんが、今あるものを活かす、という視点でみていて水と緑の環境づくりをテーマに公園・広場など。コミュニティの再生の場という意味を込めて。

## 5. まち歩きの中で魅力に乏しかった場所と理由(いくつでも)

- ・**那覇新都心**：どこにでもある地方の郊外、沖縄らしさが無い。ただ、若い人が来ていたので、観光以外の沖縄に住む人々にとっては魅力のある街と捕らえられているのだろうか。沖縄の人は南国風の緑溢れる街やエリアに育っていたような気がするが、緑が少なく、平面的な機能優先の街に見えた。つくばのような感じもした。
- ・**新都心**：－
- ・**那覇新都心**：歩くと言う意味では魅力に欠ける。
- ・**那覇新都心の街路**：沖縄らしさが何も感じられない。商業施設は家電量販店、遊技場、ショッピングセンターと本土でもよく見られるもの。公園ももっと沖縄の墳墓や伊是名殿内などの資源を活かす術があるはず。公園が主役になりきれていない。すべてにコンセプトが中途半端。
- ・**新都心地区**：皆さんの感想にもありましたが、街の特徴に乏しいと思います。但し、裏通りの、沖縄らしい（趣味が良いとは言えませんが）RC造の住宅街を歩くと、本土の方は珍しいと思うのかもかもしれません。]
- ・**新都心**：歩くのではなくメインプレス等に車で買い物するまち。
- ・**旧中心地エリア**：那覇の歴史の説明があったから興味を持って歩けたが、残念ながら見所が少ない。
- ・**旧中心地エリア**：中高層建築物が多く、その上街路樹が無い道路が多いので、少し殺風景な印象を受けました。せっかく昔の歴史が書き込まれた石盤があるので、少しでも歴史的な雰囲気を感じさせるまちづくりが出来ればと思いました。
- ・**旧中心地**：銘板はあるが歴史性やテーマが希薄化し、地域性が見えにくくなっている感がある。
- ・**栄町、てんぷす那覇**：よく言えないが、てんぷす那覇の魅力がわからない。
- ・**牧志公設市場**：老朽化により再築が予定されているが、水上店舗も含めて市場の結束力が弱いと思う。観光客の恩恵は一部に留まり、現在は好調であるが将来に対する不安が大きい。国際通りも含めて地元が利用しない市場は衰退するのではないかと危惧している。

6. あなたなら、那覇の魅力をどのように伝えますか？（できれば、キャッチコピー風に）

- ・那覇は日本でなかった。アジアだった（アジア的混沌の楽しさが残っている）・・・と私は友人にいました。
- ・～目的地型から回遊型へ～ 移動がすべて資源・魅力の那覇のまち歩き（【参考】市交通基本計画づくり；なはの自然・文化が息づく交通まちづくり）
- ・今も昔もチャンプルシティ
- ・定番の「歴史、戦禍、米基地、美しい海」で十分。どうアピールするかが重要。
- ・那覇は昭和レトロの市場が元気です。
- ・石灰岩文化のまち那覇
- ・スピリチュアル体験のできる街
- ・アジアの様々な文化が融合した、魅惑的な国際都市「那覇」
- ・那覇の魅力を知りたかったら、半分観光客の心で、半分地元の人の心を持ってください。それから、沖縄県は観光客にとって別世界かもしれないが、那覇はそうではない。地元の人の生活を知るたびです。
- ・心の奥の風景を呼びおこすまち那覇、チャンプルーな文化が息づくまち。
- ・”アジア”をまとめて体感できるまち、那覇
- ・琉球王朝時代は河口部の島だった那覇が、埋立、戦災、占領、開放、区画整理を経て現在に至った経緯や、わずかに残るその痕跡を知り、大変に驚いた。そこで、「島だった那覇が、海中道路で首里とつながっていた。それが幾多の歳月と激動の歴史を経て、現在どうなっているかを辿る」というテーマで街を歩くのも面白い。
- ・「アジアへの情熱と日本のあたたかさ」をポイントにします。
- ・幾く世を紡ぐ歴史観光都市 なは
- ・『ゆったり、まったり、あたたかなまち那覇へ』時間がゆったり流れ、健康でおいしい料理を楽しみ、人も気候も暖かな街で癒しの体験を。
- ・那覇のまちは、歩くのに適した環境とは言えませんが、一つ角を曲がると、全く違った風景に出会えたり、時間の流れが変化するような雰囲気を感じられます。暑い日も寒い日もお散歩しながら、魅力を発見して頂きたいです。ということで「暑くても歩いてみよう那覇の街！冬はどうする？」という感じです。
- ・「ゆいレールで歴史歩きも楽しいよ、那覇」という感じでしょうか・・・。（私が抱いてのは、那覇という「買い物（DFSや国際通り）」「離島への乗り継ぎ」「レンタカーを借りる場所」というイメージだったので、ゆいレールを使っての街歩きはこういったイメージを良い意味で崩してくれました。）
- ・那覇にはいろいろな地域があって、それぞれがユニークなのでもっとよくみてみて、っということを伝えたい。